

7季ぶり1部へ振り返り咲き 東都大学野球 入れ替え戦 駒大に連勝！



東都大学野球春季リーグ戦の1,2部入れ替え戦が6月8,9の両日、神宮球場で行われ、2部優勝の専大が1部最下位の駒大に連勝し、1部復帰を果たした。

リーグ戦通算31回の最多優勝回数を誇る東都の名門が7季ぶりに鮮やかな復活を遂げた。駒大は初の2部降格。

【1回戦】1回裏、二瓶準也(経営4・宇都宮学園高)が四球で出塁、阿部善隆(商4・専大北上高)が本塁打を放ち2-0と先制する。4回裏には1死1、3塁から佐竹道隆主将(経営4・浜松工高)の適時打で1点を追加。7回裏には阿部の2塁打から、山内匠二(経営4・津久見高)、松元政樹(商3・明德義塾高)も安打で続き、4得点。8回裏にも代打・河原康司(商4・鎌倉学園高)の右越本塁打で2点を追加。守っては、先発した江草仁貴(経済4・盈進高)が6回1失点と駒大打線を封じる。7回から登板した小西正則(経営4・北嵯峨高)もきっちり抑え、10-3で大勝。

【2回戦】1回表、阿部の適時打で1点を先制。4回には両者1点を追加。その後は満塁のチャンスを作りながらも両者無得点のまま迎えた9回表、駒大のエラーと阿部の3塁打で3点追加。投げては加納大祐(商4・鎌倉学園高)が被安打4、9脱三振の好投をみせ完投。5-1で勝ち、念願の1部復帰を果たした。



■2部リーグは3季連続優勝

東都大学野球春季リーグ戦(2部)は5月28日に全日程を終了し、専大は9勝3敗勝ち点4で国士大と同率の順位。この結果、5月30日に神宮第2球場でプレーオフが行なわれ、小西の力投に加え、阿部のスリーランホームランなどで6-3と勝利し、3季連続優勝を果たした。

■堀田一彦監督の話

堀田一彦監督は「昨年の経験が生きた。春秋入れ替え戦敗退の屈辱を果たせた。一部でも上位にいけるように、いずれは大学日本一を目指して頑張りたい」と笑顔がこぼれた。

■佐竹 道隆主将の話

佐竹道隆主将は「強気で駒大と戦い、チームの雰囲気も良かった。キャプテンとして精神的にプレッシャーを感じる事もあったが、みんなを信じていました。自分はこのチームを日本一だと思っている。さらに強いチームを目指して頑張ります」と力強く語ってくれた。

(高橋奈津子・文2)

[6月15日/ニュース専修16面]

17度目のリーグ制覇 準硬式野球 最優秀選手中山・最優秀投手杉江・首位打者島田



東都大学準硬式野球春季リーグ戦(1部)が3月25日から5月26日まで八王子市民球場ほかで行なわれた。専大は10勝2敗勝ち点5で2季ぶり17回目のリーグ制覇を決め、全日本大学選手権出場の切符を手にした。

優勝を争う日大との2回戦は、石野佑一(法4・星稜高)の4打点の活躍などで6-1と快勝。続く3回戦、先発の杉江聡文(経営3・横浜立野高)ら投手陣が好投し、両チーム無得点のまま延長戦へ。迎えた10回表、1死2塁のチャン

スに中山真吾主将(経営4・星稜高)が決勝タームリーを放ち、1-0で緊迫した投手戦にピリオドを打った。

今季の最優秀選手にも選ばれた中山主将は「開幕戦を落としたが、毎日の厳しい練習と自分たちの全員野球で勝ち取れた。」とリーグ戦を振り返った。

ベストナインには最優秀投手の杉江と、首位打者の島田克幸(経営1・専大北上高)、野嶋浩平(文4・専大松戸高)の両外野手が選ばれた。

(桃沢 薫・商3)

[6月15日/ニュース専修16面]

鈴木 関東女子アマに初優勝 2日目にスコアを伸ばし、逆転 ゴルフ



関東女子アマチュアゴルフ(東京・小金井CC、6188ヤード、パー73)が5月20日、21日に行われ、鈴木麻美(商3・武蔵野高)が77、68のトータル145ストロークで初優勝を果たした。

学生だけでなく一般も参加するこの大会。肩には炎症を起こしての出場で初日は15位と出遅れたが、2日目はスコアを着実に伸ばし、逆転した。

「予選を通ることが目標だったのに、まさか、まさか・・・」と喜びを噛み締めるように語った鈴木は、日本女子アマ(6月25～29日・千葉県オーク・ヒルズCC)への出場権を獲得した。

(北野 いづみ・文3)

[6月15日/ニュース専修16面]